



キッズエリート 指導ガイドライン 方向性

JFA技術委員会キッズプロジェクト

生涯サッカーを楽しみ、
支える人々

日本代表

リーグ

各カテゴリー日本代表

リーグ

サポーター

これからリーグ

U-16トレセン

これからリーグ

U-13/14エリート

U-14トレセン

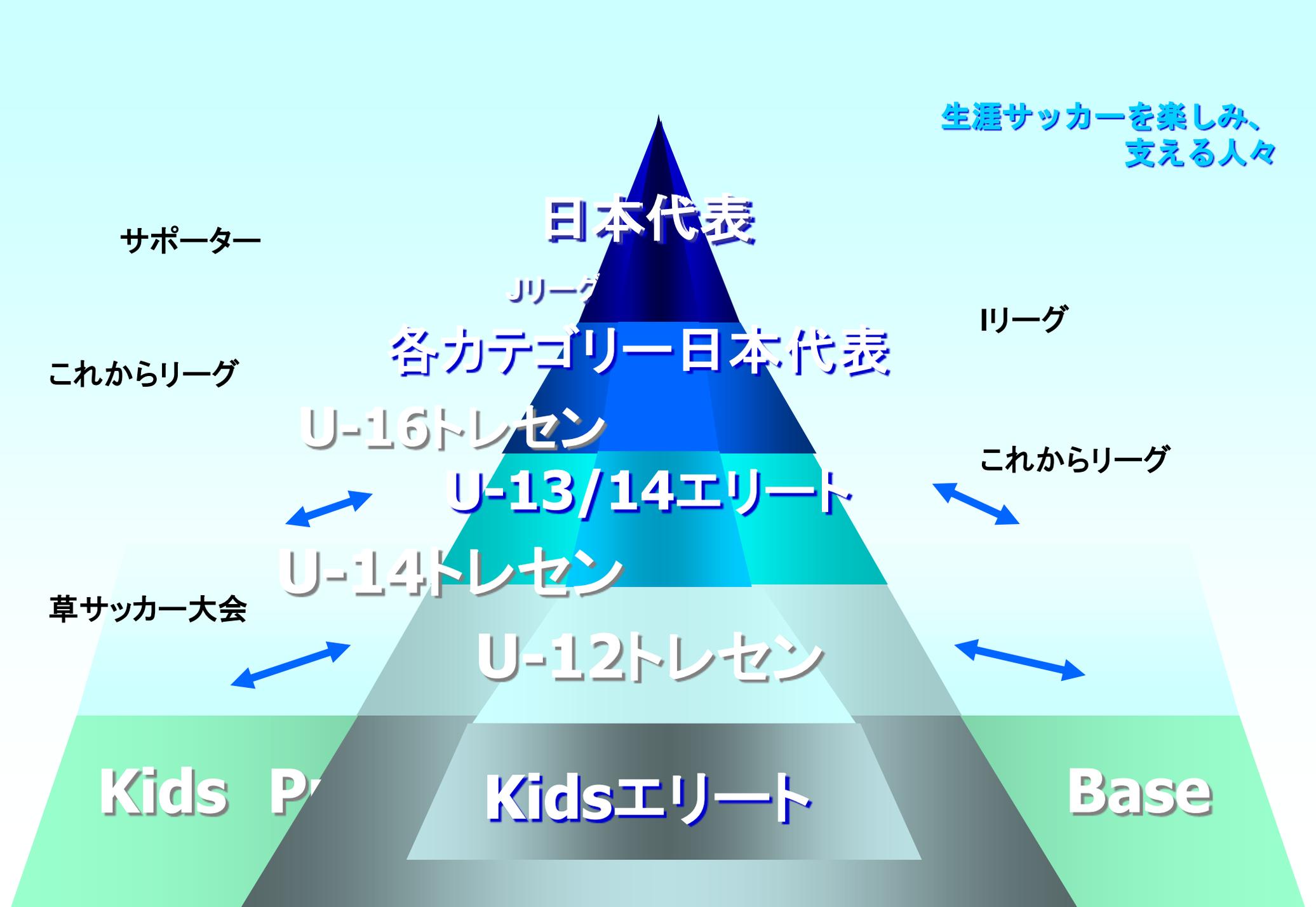
草サッカー大会

U-12トレセン

Kids P

Kidsエリート

Base



A代表

U-23代表

U-20代表

U-17代表

U-20

← 特別指定選手制度

U-18

← U-16トレセン (ナショナル←地域←都道府県←地区)

← ロジング・中高一貫教育

U-16

← U-14トレセン (ナショナル←地域←都道府県←地区)

U-14

← U-13/14エリートプログラム

U-12

← U-12トレセン (ナショナル←地域←都道府県←地区)

U-10

← キッズエリート

U-8

U-6

キッズプログラム (普及・ベース)

2005年宣言の実現 「2015年トップ10」に向けて ロードマップの作成

2015年、日本をこういう姿にする

1. 競技環境：リーグ戦文化の定着
2. 拠点整備：様々な活動の核として
3. U-12年代の重要性
4. キッズ年代の充実
5. トレーニング環境：指導者の質

キッズ、キッズエリート(~U-10)

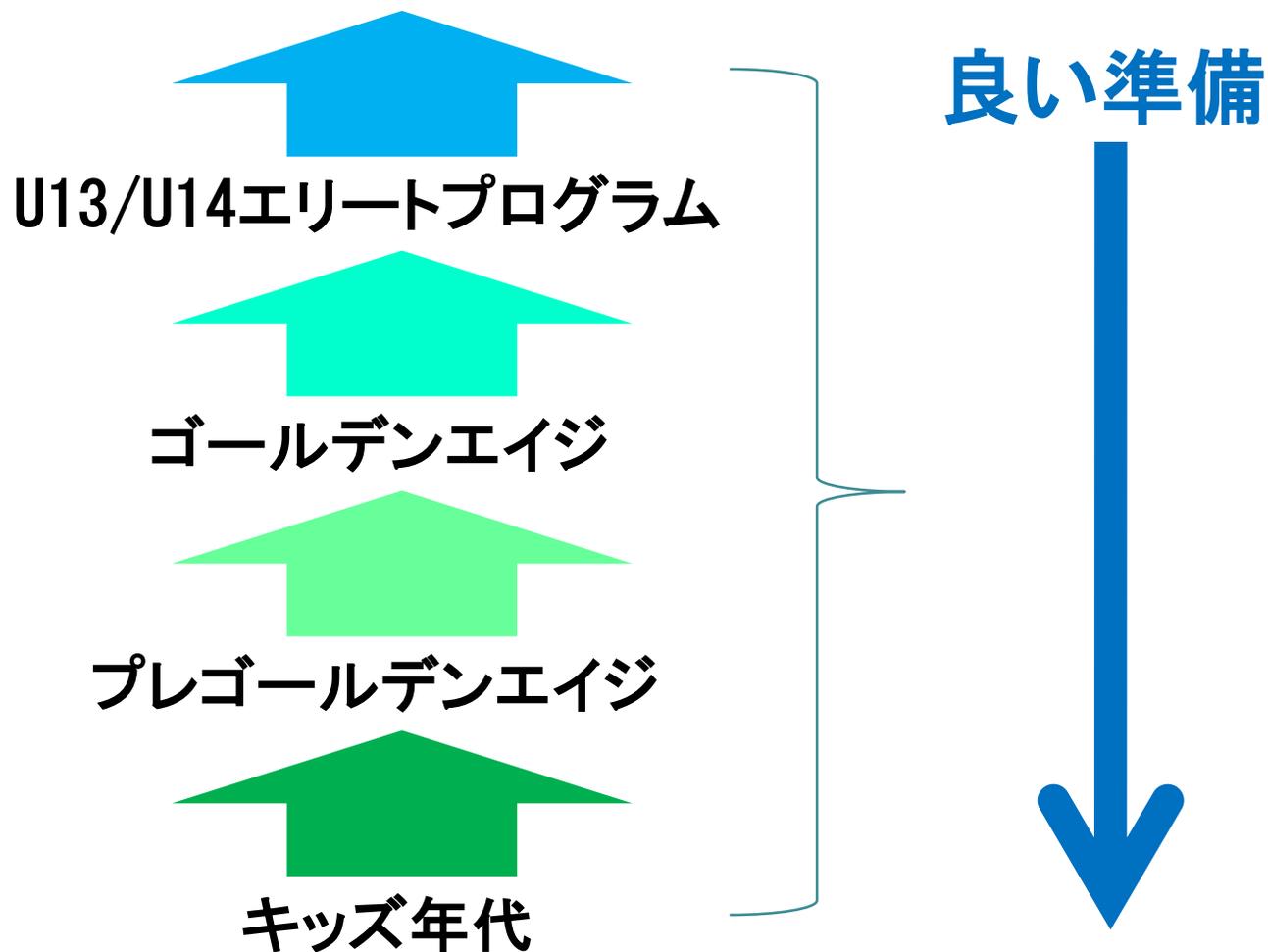
育成のためのより良い準備という位置づけで、U-12へつなげていく。

小さい頃からからだを動かしてサッカー、スポーツに親しみ、成長に適した刺激を受けることで、生涯にわたりスポーツを愛する人を増やすとともに、心身ともに健康でコーディネーションに優れた子ども達を日本全国で増やす。

ゴールデンエイジの前の準備として、左右の足でボールを自由自在に扱うことができるようになった状態で、U-12以降の育成をより充実させることができるようにする。

各年代での充実のために:

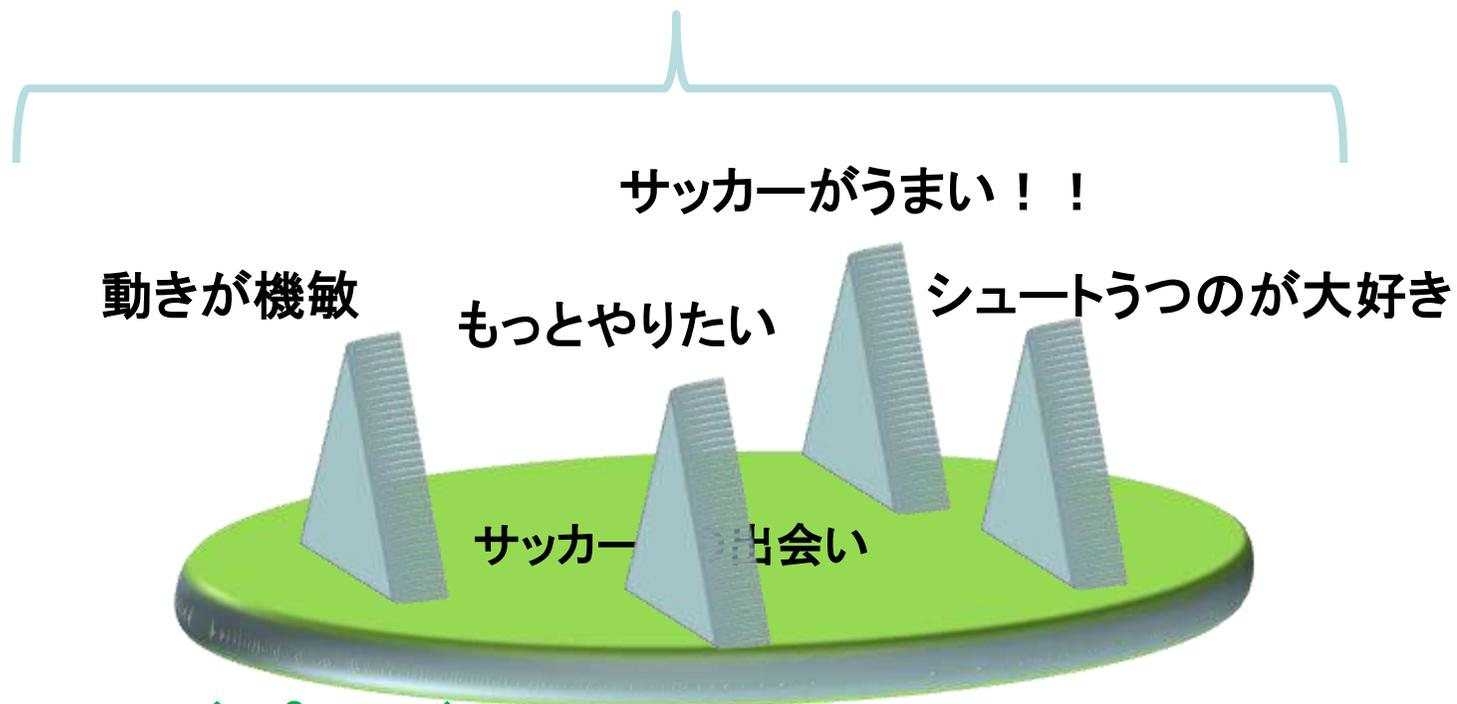
前段階の準備の重要性



それぞれの年代を特異な時期ととらえ、良い準備を積み上げる

JFA キッズエリートプログラム

質の高い環境の提供

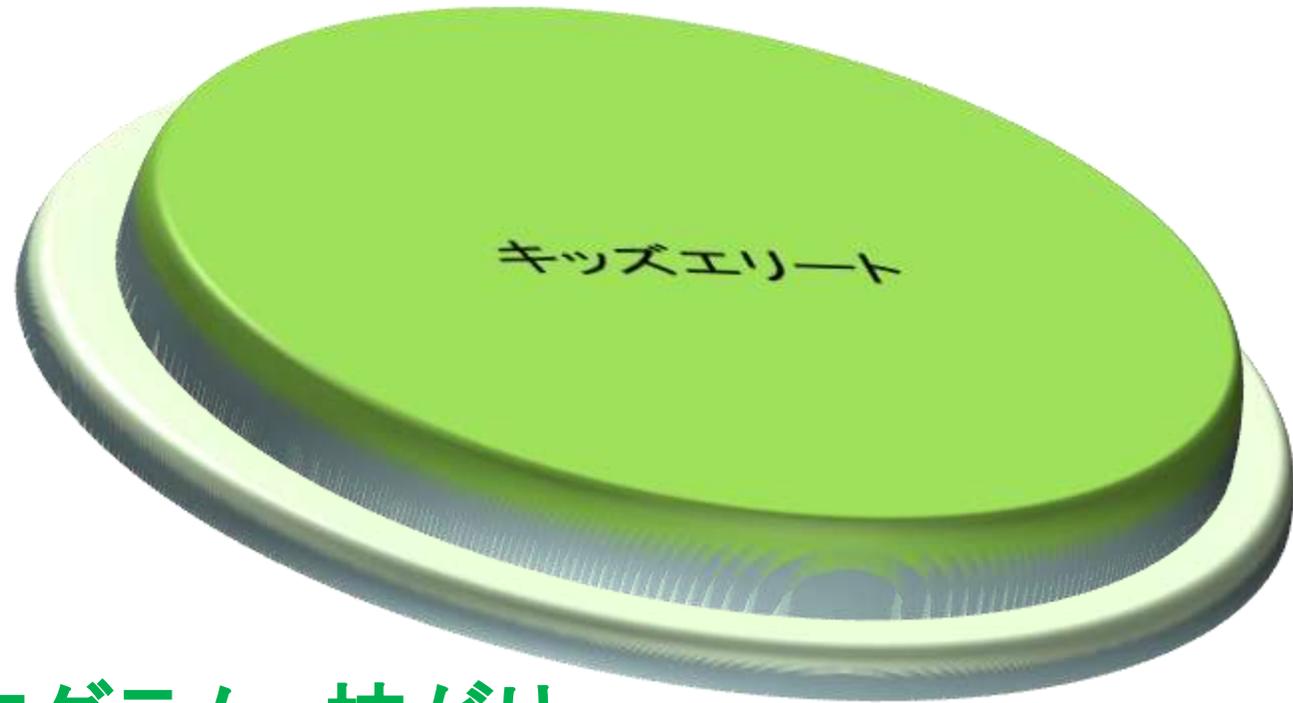


キッズプログラム

:よい出会い、楽しみの機会の創出

⇒ 質へのアプローチ(より本質的な楽しみ、喜び)

キッズエリート 質の高まり
新たな力の注入



キッズプログラム 拡がり

質の高い環境を提供するために

指導の質の重要性

子どもに接する力 ← 大前提！

サッカー理解

サッカーの本質、方向性の理解

育成の全体像の理解

⇒ サッカーの面白さを伝える. サッカーの技術・戦術を伝える

デモンストレーションの力

やってみせる. 一緒にプレーする. 子どもの力を引き出す

数値では測れない要素を見抜く力

サッカー選手としての可能性. 性格(パーソナリティ). 運動能力

⇒ 専門的能力をもった指導者の必要性

質の高い環境を提供するために

個に応じた適切な働きかけ

個々の成長や運動能力に応じた課題の設定
個別な対応



質の確保

人数の制限が必要となる場合がある

もっとやりたい
サッカーが大好き
サッカーが上手
無理なく参加できる（距離、時間、保護者）

指導者の確保

子ども/指導者 数のバランス（サポートの活用含む）

みんなにできることが理想だが困難
⇒ 今後拠点を増やす努力を合わせて行う

指導の3本柱

1. サッカーセンス/理解

スモールサイドゲームを活用し、ゲーム感覚を磨く

ボールを止める, 運ぶ, 蹴る
味方との関わり
相手への対応
スペース感覚

提供の仕方、働きかけによって
より良いゲームにすることができる

「思いっきりサッカーを楽しませる」から
良いサッカーを楽しむ へ



スモールサイドゲーム(4対4等)でゲームの中の一人一人のプレーを確保

指導者と一緒にプレーする
異年齢グループでプレーする



モデルの提示
(観て、感じて学ぶ)

指導の3本柱

2. ボールフィーリング

左右の足で自由自在に

3. コーディネーション

ぎこちない
動きや技術



自由自在

左右両足両手身体各部でのボール扱い
全身、左右上下への身のこなし
バランス

臨界期:

キッズ年代の主課題に集中

指導の留意点

1. グループングの効果的な活用

体格, 運動能力, 心理的特徴, 指導の意図, ……

2. 身体能力の高い子への配慮

今持つ能力だけで解決させないように丁寧に働きかける

コーディネーション, 技術の向上に重きを置く

3. コーディネーションを高めるための適切な働きかけ

やらせるだけにならない

個々を見る

動きを観る目

※教え込みにならない

指導の留意点

4. デモンストレーション

観て感じて学ぶ子どもたちに良い刺激になるように。
自分で、仲間が、お兄さんが・・・
子どもに伝わる表現

5. ミニゲームの積極的活用

サッカーを学ばせる機会として、少人数ゲームを積極的に活用する
4対4等

6. 知恵, 工夫

こどもの発想, アイディアを大切に
それを引き出す課題の設定 声かけ

7. 大人としての余裕

見通し(長い目で), 忍耐, 親よりも余裕を持って
情熱 確信, 子どもたちの未来への責任感

10年後、20年後を見据えて

サッカーを学ぶ

サッカーで学ぶ

エリート選手のミニチュアを求めるのではない

⇒ すぐれた選手に育つためのベースの準備

未完成

育成の全体像を理解する

各年代の特異性を理解する

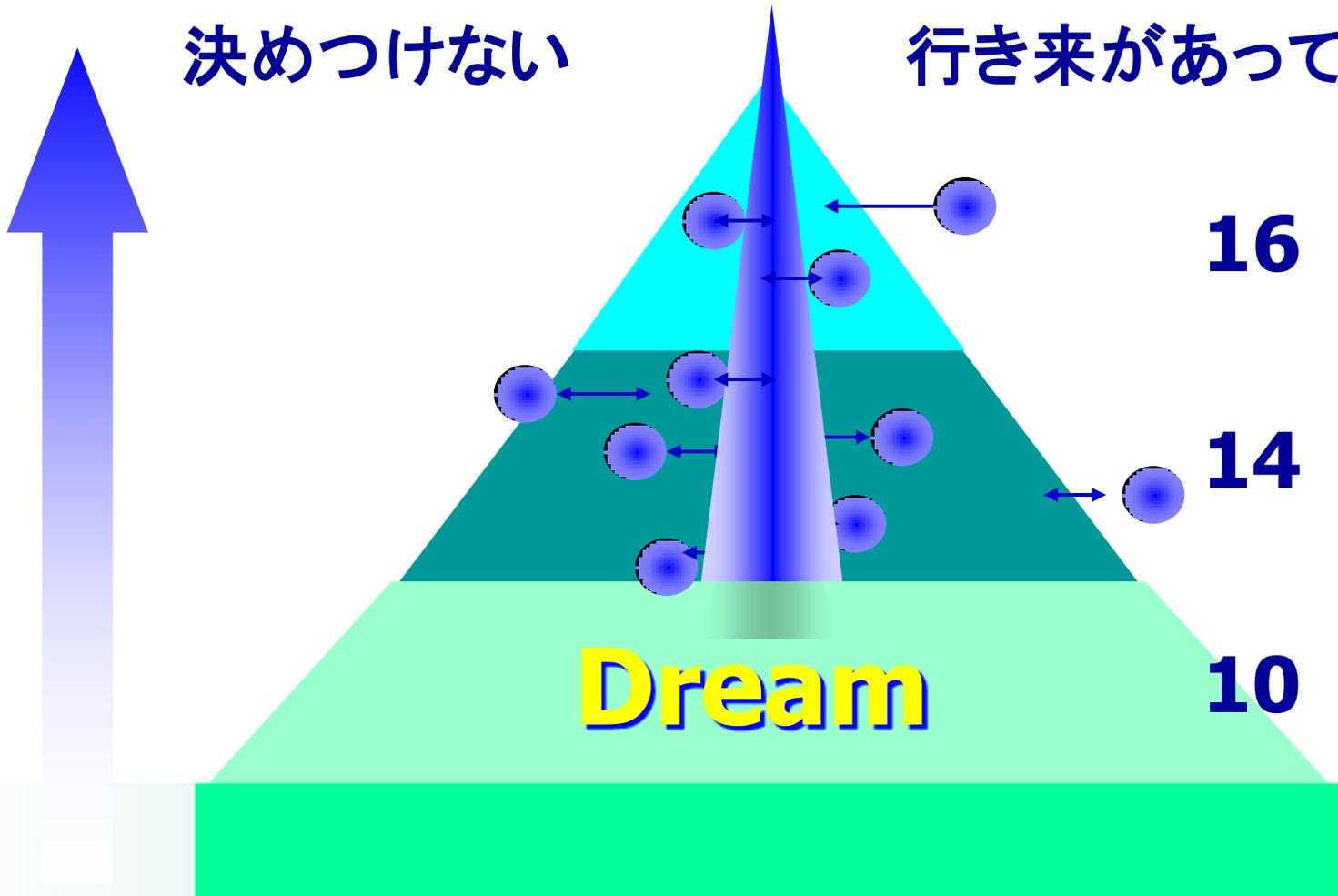
→ 次の年代にやるべきことは次に残しておく

社会性の発達（子どもらしさを大切に）（さまざまな経験）

無限の可能性

決めつけない

行き来があっていい



16

14

10

Dream

世界トップ10を目指して

JFA2005年宣言:もっとレベルの高い日本を目指す。

「待ちたければ待つのもいい. しかし偶然はない」

現在の日本に必要な「仕掛け」をする。

子どもたちが伸びるための場を創出する

挑戦し, 必然に近づける

直接・間接の成果

キッズエリートから 世界に通用する選手の輩出

(動きの機敏性, 心身共に持久力を備え, 優れた技能, 統率力を持った選手)

偶然ではなく, 確率高く輩出される土壌を作る



キッズ年代 及び 育成年代全体の充実、レベルの向上
日本サッカー界全体の充実、発展